

# 事業所における自己評価総括表(公表)

COMPASS 発達支援センター・飯塚



○事業所名	COMPASS発達支援センター・飯塚		
○保護者評価実施期間	2025年 9月 12日		2025年 9月 27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数) 14
○従業者評価実施期間	2025年 9月 12日		2025年 9月 27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 10月 17日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	COMPASSでは全国に事業を展開しており、系列事業所との連携があります。各担当者が会議や勉強会をおこない、事例検討なども含めて多様な視点からの意見を取り入れ、計画書や日々の療育に反映しております。	各担当毎に事業部内で担当グループが形成されており、担当グループ主体での会議や勉強会が実施されています。複数の地域に事業所があるので、不明な点などは指定権者に確認をし、法令に沿った事業所運営をおこなっております。	児童が楽しみながら通ってくる事業所、成長を感じられる事業所、安心して通ってもらえる事業所を常に考えながら、決められたルールを遵守して取り組んでまいります。
2	・送迎範囲を限定しているため、地域に密着したきめ細やかな支援をおこなっております。 ・利用児童・保護者様からの急な利用希望やご連絡にも柔軟に対応できる体制を整えております。	・急な利用希望や家庭事情の変化にも対応できるよう、職員間での情報共有を日々徹底しています。 ・送迎ルートや時間の効率化を図り、短い送迎範囲の中でも安全かつ迅速な対応を心掛けております。 ・利用児童一人ひとりの状況を把握し、送迎時にも安心して過ごすことができるよう声掛けや安全確認を重視しております。	・送迎範囲外のご家庭への対応策を試み、保護者様による送迎支援などの連携送迎等の検討をおこなってまいります。 ・地域の関係機関や学校との連携を深め、支援体制の充実と地域ネットワークの拡大を図ってまいります。
3	・職員間の関係が良好で、日常的に声を掛け合いながら協力して支援をおこなっております。 ・利用者様の様子や変化を速やかに共有できる体制を整えております。 ・送迎時や活動中など、職員同士が自然に情報交換できる環境を整えております。	・定期的なケース会議・スタッフミーティングを設け、課題や成功事例等を共有しております。 ・職員間で肯定的な意見交換を意識し、支援内容の振り返りや改善提案をしやすい雰囲気づくりをおこなっております。 ・支援記録や写真をもとに、利用者様の成長や変化を視覚的に共有し、共通理解を深めております。	・職員研修やミーティングで、伝わる報告・要点整理などのスキルアップを図ってまいります。 ・新任職員にも分かりやすい情報共有体制を整え、支援の継続性を高めてまいります。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	現在、保護者様同士の交流やきょうだい児への支援機会が十分に確保されていないことが課題となっております。保護者様の孤立感を防ぎ、家庭内の支援力を高めるため、定期的な交流会やきょうだい児も参加できるイベント等の企画を検討してまいります。今後は保護者様の意見を取り入れながら、ご家族全体が安心して関われる環境づくりに努めてまいります。	保護者様同士の交流やきょうだい児への支援機会が十分に確保されていないことが課題として挙げられます。今後は保護者様が安心して相談・共有できる交流の定期開催等の検討をしております。	現在、保護者様どうしの交流やきょうだい児への支援機会が十分に確保されていない事が課題です。保護者様の孤立感を防ぎ、家庭内の支援力を高めるために、定期的な交流会やきょうだい児も参加できるイベント等の企画を検討してまいります。今後は保護者様の意見を取り入れながら、ご家族全体が安心して関われる環境づくりを目指してまいります。
2	・感情が高ぶった際や環境から一時的に離れたい児童に対して、十分に落ち着けるクールダウンスペース(個室)が確保されていません。 ・限られたスペースの中で活動エリアと静かな環境を分けることが難しく、状況によっては他児の影響が生じる場合があります。	・建物の構造上、完全な個室スペースを設ける物理的な余裕がありません。 ・利用児童数や活動内容の多様化により、スペースの使い分けが難しくなっています。	・パーテーションや簡易テント、クッションマット等を活用し、簡易的でも安心して落ち着けるスペースを設けてまいります。 ・クールダウンスペース利用後のフォロー(気持ちの振り返り・安心確認)を支援の流れとして定着できるよう取り組んでまいります。
3	・職員の経験年数や専門性にばらつきがあり、支援内容に一貫性を持たせることが課題となっております。 ・保護者様や関係機関との情報共有において、職員全体の理解と対応力を底上げする必要があります。	・業務が多岐にわたる中で、時間的余裕が少なく職員育成や振り返りの時間が確保しづらい時があります。 ・定着率や勤務形態の多様化により、支援ノウハウの継承が難しい面があります。	・現場訓練やロールプレイ等、実践的な学びの場を定期的に設けてまいります。 ・外部研修・専門家の助言を取り入れ、支援スキル・障がい理解の深化を図ってまいります。 ・業務分担やスケジュール調整により、児童一人ひとりと関わる時間を確保してまいります。

